

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00677

研究課題名（和文）学習環境要因と学習者の心理的欲求充足度

研究課題名（英文）Learning Environment Factors and Learners' Psychological Need Satisfaction

研究代表者

大木 充 (Ohki, Mitsuru)

京都大学・人間・環境学研究所・名誉教授

研究者番号：60129947

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、言語教育におけるオンライン授業のあり方について動機づけの観点から考察することを目的に行われた。本研究で実施したアンケートは、フランス語の授業形態に関する学生の意識調査を目的とするものであるが、その理論的枠組みとなっているのがDeci & Ryanの自己決定理論である。この理論は、活動に対する主体性の認知度である自己決定度を尺度にして動機づけをみついている。自己決定度を左右する要素は、「有能さ」、「自律性」、「関係性」それぞれに対する基本的心理欲求である。オンライン授業の形態や授業内容によって学習者の動機づけに与える影響がさまざまであることが本研究では明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で得られた結果は、対面授業が中心となっている現在、教室での活動をより効率良くするためには「教室外でもできることは教室外で」という視点を持つことが改めて重要になることを示唆している。オーラル、非オーラルに関係なく、オンラインを活用して教室での活動の前に予習や下調べなどの準備に充てる、あるいは反対に復習や学習したことを応用した課題に取り組む回を設けるといったことが考えられる。コロナ禍での経験、そこで得られた知見やノウハウは今後の教育の基盤になりえるのではないだろうか。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine online classes in language teaching from a motivational perspective. The questionnaire conducted in this study, which aimed to investigate students' attitudes toward the French teaching format, was based on Deci & Ryan's self-determination theory, which serves as the theoretical framework of the study. The theoretical framework of this theory is Deci & Ryan's self-determination theory, which deals with motivation based on a scale of self-determination, which is the degree of recognition of one's own initiative in an activity. The factors that influence self-determination are basic psychological needs for competence, autonomy, and relationships, respectively. The study revealed that the form and content of online classes have various effects on learner motivation.

研究分野：外国語教育

キーワード：学習環境要因 オンライン授業 遠隔授業 対面授業 自己決定理論 動機づけ 学習者の心理的欲求充足度

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

コロナ禍によって、学習者の学習環境が変わった。ICT 環境が急速に改善された。それに対応するには、従来、授業者が教室で行っていた授業をそのままオンラインで再現するだけでは不十分である。教室での対面授業で満たされていた学習者の心理的欲求がオンライン授業では十分に満たされない可能性がある。「いま必要なのは、Maslow（心理学者）Before Bloom（教育学者）である」、この合い言葉に端的に表現されているように、変化した学習者の学習環境を学習者の立場に立って考慮する必要がある。キャンパスでの活動や教室での対面授業で満たされていた学習者の心理的欲求の充足を考慮した授業を遠隔授業でもできるだけ実施する必要がある。さもなければ、学習者は学習に苦痛を感じるようになり、脱落するか学習意欲を無くしてしまう恐れがある。

### 2. 研究の目的

学習者の心理的欲求の充足を考慮した授業を実施するには、まず現在の学習者の心理的欲求の充足度を知る必要がある。そのために、本研究では、心理学のDeci & Ryanの「自己決定理論」に基づいた質問紙を開発してアンケート調査を行う。この理論では、動機づけは連続体で、合計6段階に分かれている。また、この理論によると、動機づけは、「有能さへの欲求」、「自律性への欲求」、「関係性への欲求」という3つの基本的心理的欲求と関連づけられていて、その充足度に応じて動機づけは段階的に変化する。社会的文脈要因が心理的欲求に有利に働き、心理的欲求の充足度が高くなれば、内発的動機づけが保持されたり、外発的だった動機づけがより内発的なものへと移行していく可能性が高くなる。社会的文脈要因には、授業形態などの学習環境も含まれている。学習環境、心理的欲求、動機づけの関係を図示するとつぎのようになる。



このように、自己決定理論では、動機づけと学習環境要因（授業形態、クラスの雰囲気、クラスサイズ、授業者特性、授業方法、教材など）との関係を心理的欲求を媒介変数として考察することが可能である。また、動機づけを固定的でなく動的にとらえているので特定の学習環境要因について、その心理的欲求充足度がどの段階の動機づけと関係しているのかを知ることができる。以上が自己決定理論の枠組みで本研究を行う理由である。

質問紙は2種類あり、3つの心理的欲求（有能さ、関係性、自律性）の充足度に関するものと動機づけ（学習意欲）に関するものである。こうして、心理的欲求の充足度だけでなく、心理的欲求の充足度と動機づけの関係も調べる。

### 3. 研究の方法

各学習環境要因と各心理的欲求充足度は、どのように関係しているのか。それぞれの学習環境要因について3つの心理的欲求充足度の特徴をフランス語学習者へのアンケート調査を通じて明らかにする。平成3年度に、Web アンケート用質問紙作成し、前期と後期に実施した。前期（第1回調査）は約2000名、後期（第2回調査）は約1500名の被験者から回答を得た。

本研究では分析対象者の受講した授業形態によって動機づけと基本的心理欲求の充足度を比較をする（1 要因の分散分析とt 検定）。さらに、基本的心理欲求の充足に対する受講したオンライン授業の形態と授業内容との関係について分析する（2 要因の分散分析）。

#### 4. 研究成果

##### **分析結果と考察1：実際に受講した授業と好きな授業形態の関係**

第1回調査の時点では対面授業を含めた分析、オンライン授業に限定した分析、いずれにおいても概ね実際に受講した授業と同じ形態を好む傾向が見られた。前者で対面授業を好む割合は高かったものの受講した授業と好む授業が一致していたことは、この時点で選択した授業形態しか受けたことがない学生にとって、比較対象とするものがなかったことを裏付ける結果であった可能性もある。第2回調査では、対面授業を含めた分析において第1回調査以上に受講した授業と好む授業が一致している傾向が見られたが、一方でオンライン授業に関しては好きな授業形態が分散している傾向が見られた。このことは半期間の経験を踏まえてオンライン授業のメリットを見出すなどして抵抗感が薄れたこと、また対面授業も含めて授業形態の違いに対する学生の理解が深まっている可能性も考えられる。

##### **分析結果と考察2：受講した授業形態と動機づけの関係**

分散分析の結果、第1回は内発的動機づけと取り入的調整以外の項目で有意な群間差が見られた。記述統計量から対面授業とオンライン授業との間で比較的大きな差のあることが確認できる。第2回では内発的動機づけと無動機以外の項目で有意な群間差が見られた。外的調整において混合と他の2群との間で有意差が確認された。そして自律性の欲求と関係性の欲求においては、オンライン授業と他の2群との間で有意差が確認された。

##### **分析結果と考察3：オンライン授業の形態、授業内容と基本的心理欲求の充足度との関係**

対面授業を含めた分析において、動機づけの自己決定度、基本的心理欲求の充足のいずれにおいてもオンライン授業は対面授業を下回っていた。特に基本的心理欲求においてはそれが顕著であり、なかでも関係性への欲求の充足度においては授業形態が大きく影響していると考えられる。このことは冒頭の調査結果やコロナ以前の研究でも課題とされていたことが本研究でも示されたと言える。しかしながら、授業内容を含めた分析によってオンライン授業が一律に対面授業に劣るとは言えないこと、そしてオンライン授業と相性の良い授業内容がある可能性が示された。

一口にオンライン授業と言っても、その形態や授業内容によって学習者の動機づけに与える影響がさまざまであることが本研究では明らかになった。当初は評判が芳しくなかった非同期型も非オーラルの授業においては対面授業と遜色のない基本的心理欲求の充足度が示された。基本的心理欲求についてはさらに、対面とオンラインの混合型や同期型と非同期型の混合型においても比較的高い充足度が示された。これらの結果は、対面授業が中心となっている現在、教室での活動をより効率良くするためには「教室外でもできることは教室外で」という視点を持つことが改めて重要になることを示唆している。オーラル、非オーラルに関係なく、オンラインを活用して教室での活動の前に予習や下調べなどの準備に充てる、あるいは反対に復習や学習したことを応用した課題に取り組む回を設けるといったことが考えられる。コロナ禍での経験、そこで得られた知見やノウハウは今後の教育の基盤となりえるのではないだろうか。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 堀晋也	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 The Stagnation of ELP and Its Prospects after Publication of the CEFR-CV	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Language teacher education : JACETSIG-ELE journal	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kaori SUGIYAMA	4. 巻 -
2. 論文標題 Relation entre la competence en comprehension ecrite et la connaissance lexicale au niveau A2 en francais chez les etudiants japonophone	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 8e Congres Mondial de Linguistique Francaise, SHS Web Conf. 138	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1051/shsconf/202213806019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nami Yamaguchi, David Alfter, Kaori Sugiyama, Thomas Francois	4. 巻 -
2. 論文標題 Towards a Verb Profile: distribution of verbal tenses in FFL textbooks and in learner productions	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the 11th Workshop on NLP for Computer Assisted Language Learning	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3384/ecp190	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西山教行	4. 巻 -
2. 論文標題 複言語教育のなかの「媒介」の多義性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 複言語教育の探求と実践（くろしお出版）	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木充	4. 巻 -
2. 論文標題 複言語・異文化間教育の新しい展開ー「多様性の創造性」とCARAPー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 複言語教育の探求と実践（くろしお出版）	6. 最初と最後の頁 59-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 マリザ・カヴァリ，倉館健一（訳）	4. 巻 -
2. 論文標題 就学言語と複言語ー教科ごとの知の構築における言語の役割と機能ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 複言語教育の探求と実践（くろしお出版）	6. 最初と最後の頁 21-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺田雄輝，杉山香織	4. 巻 24
2. 論文標題 日本人フランス語学習者の音読における流暢さの測定 -時間的尺度の観点から-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山香織	4. 巻 24
2. 論文標題 受容語彙知識に基づく読解得点予測の可能性 - A2レベルのフランス語学習者を対象に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 42-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Derible, A., & Wiel, E	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Statistical analysis of the impact of the e-learning platform Furago on French learners' listening skills	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Australian Journal of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 137-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳 光子	4. 巻 21
2. 論文標題 コロナ禍における愛媛大学法文学部『基礎外国語』の教育実践 教員による授業の取り組みと学生アンケート調査の結果を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル (愛媛大学 教育・学生支援機構)	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 堀晋也
2. 発表標題 対面授業は動機づけ、自律学習能力にとって有効な授業形態か？
3. 学会等名 第2回研究集会「日本のフランス語教育の争点2022」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀晋也、長野督
2. 発表標題 オンライン授業、対面授業、好きなのはどちら？
3. 学会等名 国際研究集会 2023：複言語主義の多元性をめぐって
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 フランス語学習者の自由会話における使用語彙レベル分析 ; 留学経験による比較
3. 学会等名 日本ロマンス語学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaori SUGIYAM
2. 発表標題 Relation entre la competence en comprehension ecrite et la connaissance lexicale au niveau A2 en francais chez les etudiants japonophones
3. 学会等名 8e Congres Mondial de Linguistique Francaise
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 フランス語学習者のスピーキングにおける使用動詞の横断的分析
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nami Yamaguchi, David Alfter, Kaori Sugiyama and Thomas Francois
2. 発表標題 Towards a Verb Profile: distribution of verbal tenses in FFL textbooks and in learner productions
3. 学会等名 1th NLP4CALL workshop
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ghislain Mouton
2. 発表標題 Adaptations, attentes et desillusions curriculaires dans les programmes de FLE au sein des universites japonaises : Quelles lecons tirer de la periode avril 2020-mars 2022 ?
3. 学会等名 第2回研究集会「日本のフランス語教育の争点2022」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ghislain Mouton
2. 発表標題 les changements des progressions d'enseignement du FLE en contexte universitaire japonais : analyse des manuels japonais de FLE de ces 35 dernieres annees
3. 学会等名 第37回関西フランス語研究会 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jean-Francois Graziani
2. 発表標題 Le cours de francais : une experience de "mobilite sur place" pour les etudiants japonais
3. 学会等名 第2回研究集会「日本のフランス語教育の争点2022」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西山教行
2. 発表標題 CEFR(2001)とCEFR補遺版(2020)における「媒介・仲介」の展開について
3. 学会等名 CEFR, CEFR補遺版の仲介(媒介)活動と複言語・異文化間教育の接点ー日本語と外国語ー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 仲介活動とダイバーシティ・マネジメントと複言語・異文化間教育
3. 学会等名 EFR, CEFR補遺版の仲介（媒介）活動と複言語・異文化間教育の接点－日本語と外国語－
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 日本における複言語・異文化間教育の社会的ニーズ
3. 学会等名 第37回関西フランス語研究会 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 旅するフランス語」からR18+「恋するフランス語」へ MTとコミュニケーションの身体性
3. 学会等名 第37回関西フランス語研究会 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 倉箱 健一
2. 発表標題 機械翻訳に教師と学生はどのように向き合えばよいのか
3. 学会等名 第2回研究集会「日本のフランス語教育の争点2022」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉山香織, 大山大樹, 茂木良治, 姫田麻利子
2. 発表標題 教室の再発見: 知識の伝達または共同構築の空間としての教室とWeb会議室
3. 学会等名 日本フランス語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小澤南海, 山口奈美, 杉山香織
2. 発表標題 CEFRLexを用いた学習者言語研究と授業内活動への応用
3. 学会等名 日本フランス語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 フランス語 A2 レベルの読解得点と語彙知識との関係
3. 学会等名 外国語教育学会第25回研究報告大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kaori SUGIYAMA
2. 発表標題 Table ronde autour de l'enseignement co-modal et video de promotion de l'enseignement du francais (regard des apprenants sur les enseignants)
3. 学会等名 Webinaire : Journee internationale du prof de francais (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jean-Francois Graziani
2. 発表標題 Les enseignants natifs sont-ils necessaires pour enseigner le francais au Japon ?
3. 学会等名 大木科研公開研究集会. <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16766">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16766</a>
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西山教行
2. 発表標題 教育・学習目的の変遷ーまだ実用目的でフランス語を教える必要があるのか
3. 学会等名 大木科研公開研究集会. <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16776">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16776</a>
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 AI時代の教授法ー必要なのはどんな教授法か
3. 学会等名 大木科研公開研究集会. <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16747">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16747</a>
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 倉館健一
2. 発表標題 機械翻訳に教師と学生はどのように向き合えばよいのか
3. 学会等名 大木科研公開研究集会. <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16757">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16757</a>
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀 晋也
2. 発表標題 教授形態に関するアンケートの中間報告-オンライン遠隔授業と対面授業, 学生は本当に対面授業が好きなのか
3. 学会等名 大木科研公開研究集会. <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16764">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1076/?video_id=16764</a>
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳 光子
2. 発表標題 オンライン研修を含むフランス言語文化研修プログラムならびに 事前学習教材の開発
3. 学会等名 令和3年度愛媛大学教育改革シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 CARAP(FREPA)とAI時代に求められる教授法
3. 学会等名 日本外国語教育推進機構(JACTFL)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 英語は, コミュニケーションの道具としての教育に徹し, 複言語主義教育は, それ以外の外国語にまかせなさい
3. 学会等名 「ヨーロッパ言語共通参照枠」に関する批判的言説の学説史的考察研究会 <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1045/">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1045/</a>
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山教行
2. 発表標題 複言語主義の起源を求めて
3. 学会等名 「ヨーロッパ言語共通参照枠」に関する批判的言説の学説史的考察研究会。 <a href="https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1045/">https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1045/</a>
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 西山 教行、大木 充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 CEFRの理念と現実 理念編 言語政策からの考察	

1. 著者名 西山 教行、大木 充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 CEFRの理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト	

1. 著者名 大山 万容、清田 淳子、西山 教行	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 多言語化する学校と複言語教育	

1. 著者名 マルティーン・アブダラ=プレッツェイユ、西山 教行	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 180
3. 書名 異文化間教育	

1. 著者名 西村 亜子 Contributors 佐藤真留久, 倉館 健一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 IBCパブリッシング	5. 総ページ数 200
3. 書名 フランス語で楽しむプリンセス・ストーリー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	ヴィエル エリック  (Wiel Eric)  (00637308)	東京藝術大学・学内共同利用施設等・助教   (12606)	
研究 分担者	杉山 香織  (Sugiyama Kaori)  (00735970)	西南学院大学・外国語学部・教授   (37105)	
研究 分担者	堀 晋也  (Hori shinya)  (00737546)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・助教   (10101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	ムートン ジスラン (Mouton Ghislain)  (20761365)	同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・助教  (34310)	
研究分担者	長野 督 (Nagano Koh)  (30312408)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・名誉教授  (10101)	
研究分担者	西山 教行 (Nishiyama Noriyuki)  (30313498)	京都大学・人間・環境学研究科・教授  (14301)	
研究分担者	柳 光子 (Yanagi Mitsuko)  (60284387)	愛媛大学・法文学部・教授  (16301)	
研究分担者	G r a z i a n i J e a n (Graziani Jean-Francois)  (60538437)	京都大学・国際高等教育院・特定講師  (14301)	
研究分担者	倉館 健一 (Kuradate Kenichi)  (70407138)	慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・講師（非常勤）  (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Colloque International 2023 La diversite et la pluralite du plurilinguisme	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------